

令和3年6月 28 日

第3回 鶴見・あいねっと第4期計画策定検討プロジェクト Aグループ意見交換議事録

【参加者】

プロジェクトメンバー:石井委員、斉藤委員、増子委員

推進委員会メンバー:小林委員

ファシリテーター:区社会福祉協議会 事務局次長

1 冊子全体の構成について

【ファシリテーターより】

素案(案)における「計画の方向性」に係るページにおいて、第3期計画で設定した3つの「推進の柱」に加え、どの柱にも共通する3つの要素「人材」「相互理解」「場・機会」を「推進の土台」として新たに設定している。その後のページでは、各推進の柱の取組紹介のページのあとに、各推進の土台を紹介するページを盛りこむ形にしている(順番:柱1→人材→柱2→相互理解→柱3→場・機会)。素案(案)を読んでいただいた感想等を踏まえ、この構成について全体的な御意見をいただきたい。

【委員からの意見】

特に意見なし

2 多世代でのかかわりに係る取組及びその他意見について

【ファシリテーターより】

「推進の柱1」において「多世代のかかわりなど、地域の交流を深めます」という行動目標を設定している。これに関して、各メンバーがコロナ禍においても工夫して行っている取組や、他団体と連携した取組、課題に感じていること等、御意見をいただきたい。

【主な意見】

(民生委員の取組に関連して)

コロナ禍以降、1年半近くにわたり活動が停滞している。民生委員の大事な取組である見守り活動も思うようにできていない状況であり、対面ではなく遠くから見守る「ゆるやかな見守り」を行っている。感染状況が落ち着けば、コロナ前のような活動を再開していきたいと考えている。

(保健活動推進員の取組に関連して)

地域の健康づくりのための取組のサブテーマとして「感染症予防の普及啓発」、「特定検診の受診」の2つを設定して取組を進めている。また、昨年度はコロナ禍で中止としていたウォーキングを、人数を制限しながら今年度を実施する地区もある。

このほか、オーラルフレイル予防啓発に係る取組も行っている。痛みなどの症状が出て

から対応するのではなく、より早い段階での予防につなげられるよう取り組んでいく。

(ボランティア・市民活動団体分科会の取組に関連して)

この検討プロジェクトへの参加にあたり、鶴見・あいねっとの第3期計画を読んだことで、地域と活動団体の取組がよく分かった。

コロナ禍で、地域で個人が行っている活動や、身近な隣近所同士でできる活動の重要性に気付いた。自宅で笹を育てていた地域住民が保育園に声をかけたことで、七夕行事にその笹を使うことになり、渡す側ももらう側もお互いに喜んだという事例がある。このほか、自分たちでは難しく感じるインターネットを活用した取組について、若い人にやり方を聴いてみることなどを通じて、新たなつながりづくりのきっかけとしている。

(つるみ地域活動ホームの取組に関連して)

コロナ禍によって地域の方とのつながりが減ってしまったことで、改めて地域とのつながりの大事さを感じている。

これまで対面を中心としていた障害のある子の子育てに関する面談をリモートで行ったり、子育て理解に関する動画を配信したりと、工夫して取り組んでいる。コロナ禍について、できなくなった取組をどう行うか考えるきっかけと捉え、コロナ禍が明けた後も地域とのつながりが維持できているよう取り組んでいきたい。

3 外国につながる方の地域活動への参加について

【ファシリテーターより】

鶴見区には外国につながる方が多く在住している。こうした方々を支援する取組の他に、地域活動への参加につなげるための取組について、具体例や御意見をいただきたい。

【委員からの意見】

- ・外国につながる方の子どもが参加できる子育て支援の取組を行っている地区では、主任児童委員が支援に関わることがある。
- ・外国につながる方の子どもをフォローする教員を配置して、日本の生活習慣等を伝える取組をする学校もある。
- ・配食ボランティアに関わってくれた方がおり、活動のなかで料理を覚えた事例がある。本人にとっても利益があると参加につながるのではないか。
- ・ごみの分別など、生活に関わりがある物事を伝えることをきっかけにしてつながりができていくのではないか。
- ・外国につながる方にも福祉に携わる方がいる。つながりをきっかけに、福祉の活動にも参加いただけるかもしれない。

令和3年6月 28 日

第3回 鶴見・あいねっと第4期計画策定検討プロジェクト Bグループ意見交換議事録

【参加者】

プロジェクトメンバー:桑島委員、杉浦委員、富樫委員、日向委員(烏田委員代理)

ファシリテーター:鶴見区福祉保健課事業企画担当係長

0 冊子を読んでみた感想

- ・認知症サポーター養成講座、キャラバンメイト、近所付き合い、世代間交流などが盛り込まれており、流れとしては良いと思う。
- ・長いと感じるが、わかりやすくまとまっていると思う。

1 区計画と地区別計画を分冊することについて

【ファシリテーターより】

区全体と地区別を分冊し、各地区別計画はリーフレットのような形で作成を考えている。

【主な意見】

- ・地区別計画と分けた方が策定の時間の都合上、良いと思う。
- ・地区の取り組みが一緒にのっていた方が身近に感じられる。

2 区計画の章立てを前期計画から変更したことについて

【ファシリテーターより】

第3期計画で鶴見区の現状の統計を紹介する章を最後(44ページ)にしている。3期計画までは前半だったが、4期計画の内容を多くの人に読んでもらうために今回提案させていただいた。

【主な意見】

- ・統計を5章においたのはよいと思う。計画にたどりつくのが早くなり読みやすい。
- ・支援者の立場では統計が先の方が資料として読みやすい。ただ、地域の方が読みやすい形がよいと思う。

3 “推進の土台”の読みやすさ、分かりやすさについて

【ファシリテーターより】

8,9ページ、あいねっとの方向性の図案に柱とは、別にどの柱にも共通する課題を、“推進の土台”として追加しており、各推進の柱にそれぞれ紹介するページを盛りこんでいる。このページについての読みやすさ、理解のしやすさについてはどうか。また、土台の種まきの読みやすさについてもお聞きしたい。

【主な意見】

- ・ページ単体としてはとてもわかりやすい。ただ 8 ページの 4 期計画の方向性に関係しているかはわかりにくかった。最初の見開きの土台を示している図案に、“詳細は〇〇ページに”などと記載があるなど、連動させると読み進めやすいと思う。
- ・色やイラストなどで関連性を示せるとよい。

4 各メンバーの活動を基にした意見など

【主な意見】

(ケアプラザの取組みに関連して)

- ・ケアプラザの取組みはあいねっとの活動そのもの。ただ、あくまで主体は地域の方と一緒に進めていくものなので、計画は自分たちの、地域のものだと思ってもらえるように策定できるとよい。

(自治会・町内会としての取組みについて)

- ・外国の方が多く住んでいることが意外と知られていない。
- ・外国籍の方とつながる取組など、鶴見区ならではの内容を入れている。
- ・ずっと鶴見に住んでもらえるように。

(子ども分野の取組みに関連して)

妊娠期から地域でどう支えていくかが課題。子どもから手が離れた後に担い手になってもらえる。→地域に長く住んでもらえるような支援が大事。育児中のママを地域に巻き込むことが出来れば、パパももれなく取り込めるので、家族ぐるみで地域に関わっていただけるチャンスが増える。

- ・保育園や幼稚園の行事と地域の行事とで連携して取り組むことが出来れば、地域の担い手になっていただけるのでは。